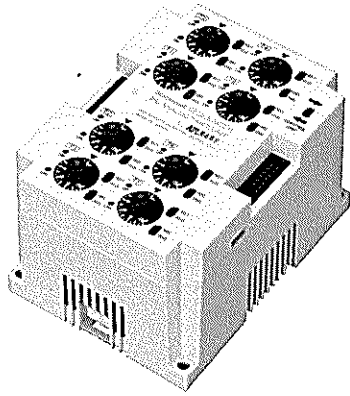


PL アナログタイマユニット

ダイヤルで自由に時間設定のできる、
PL MarkⅡ用タイマユニットです。(在来品、容量UP品
いずれも対応)



PLアナログタイマユニット (APL8608)

■特長

1. ユニット8点設定。

1ユニットにタイマが8点内蔵。8点の時間設定ができます。

2. 時間レンジ切替可能なマルチタイマ。

タイマ1点、1点は各々1秒、10秒、1分、10分の時間レンジの切替ができます。

3. 操作しやすいタイマツマミ付。

当社PDXタイマでおなじみのタイマツマミ付で、操作性に優れています。

4. ON表示、UP表示付。

タイマ限時中を知らせるON表示、およびタイマアップを知らせるUP表示付で動作状態の確認もひと目でわかります。

5. DINレールに直付可能。

PL MarkⅡの増設ユニットM8と同一寸法でDINレールにワンタッチ取付できます。

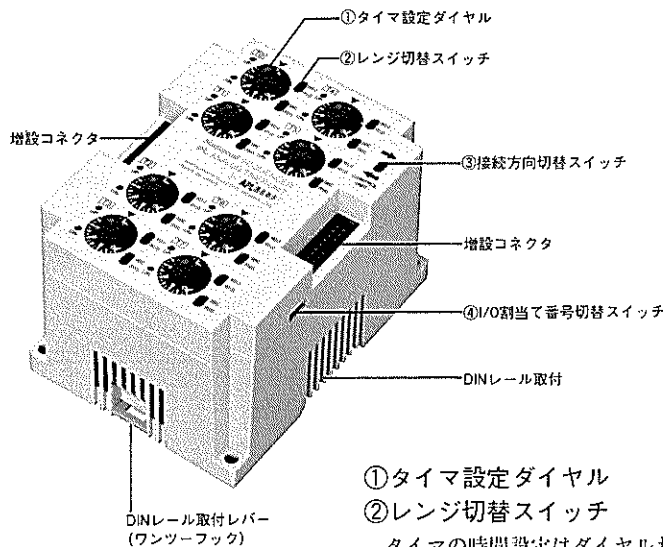
■品種

●品番の前の記号は在庫区分を表わします。 ○：工場在庫品

品名	仕様	ご注文品番	標準価格
PLアナログタイマユニット	1秒、10秒、1分、10分 (レンジ切替) 8点設定、ON・UP表示付	○APL8608	24,000円

注) 増設ケーブル (APL2510) 付です。

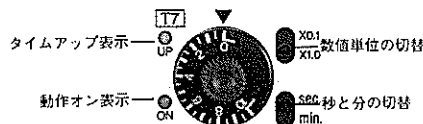
■各部の名称と機能



①タイマ設定ダイヤル

②レンジ切替スイッチ

タイマの時間設定はダイヤルおよびレンジ切替スイッチにより設定します。

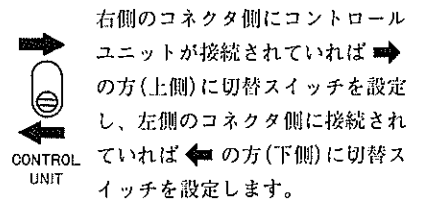


時間レンジは4仕様。

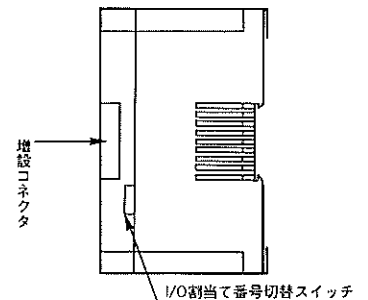
0.05～1.0秒
0.5～10秒
0.05～1.0分
0.5～10分

③接続方向切替スイッチ

コントロールユニット (PL24M、PL40M) と接続する方向を切替えます。



④I/O割当て番号切替スイッチ



I/O割当て番号切替スイッチを下側にする
と100～107または200～207に設定され、上側
にすると、124～131または224～231に設定さ
れます。

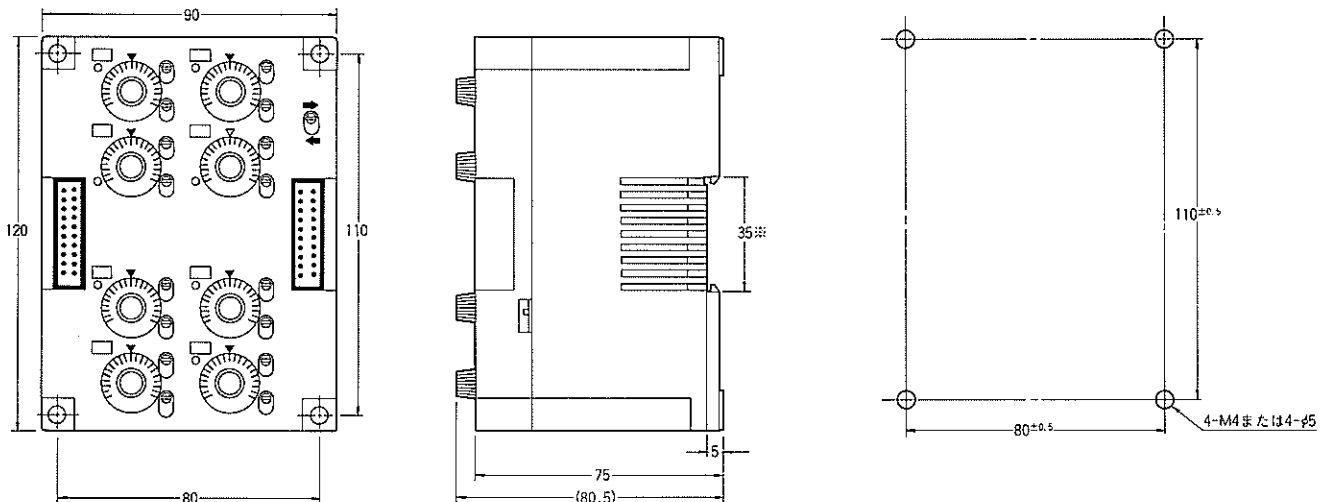
PLアナログタイマユニット(APL8)

■定格および性能概要

項目	内容	
時間設定	ダイヤル設定	
時限方式	発振計数方式	
タイマ点数	8点	
動作	オンディレー	
設定時間	0.05~1.0秒, 0.5~10秒, 0.05~1.0分, 0.5~10分(レンジ切替)	
動作表示	ON表示(赤LED), UP表示(黄LED)	
繰り返し 時間精度	動作時間誤差	±5%
	温度誤差	±5% (20℃を基準として0℃~50℃)
耐振動	10~55Hz 1分間、複振幅0.75mm、X、Y、Z方向10分間	
耐衝撃性	10G以上、X、Y、Z各方向4回	
使用周囲温度	0℃~50℃	
保存周囲温度	-20℃~70℃	
使用周囲湿度	30%~85%RH(結露なきこと)	
プログラム方法	タイマコイルはY命令、タイマ接点はX命令によりプログラムする。	

■寸法図(単位mm)

外形寸法図 ※DIN規格レール(DIN EN50022)に適合します。 取付け穴加工図



一般公差±1.0

■PL Mark II との接続

●タイマ番号と、シーケンサでプログラムするタイマコイル番号(Y)、タイマ接点番号(X)の対比表

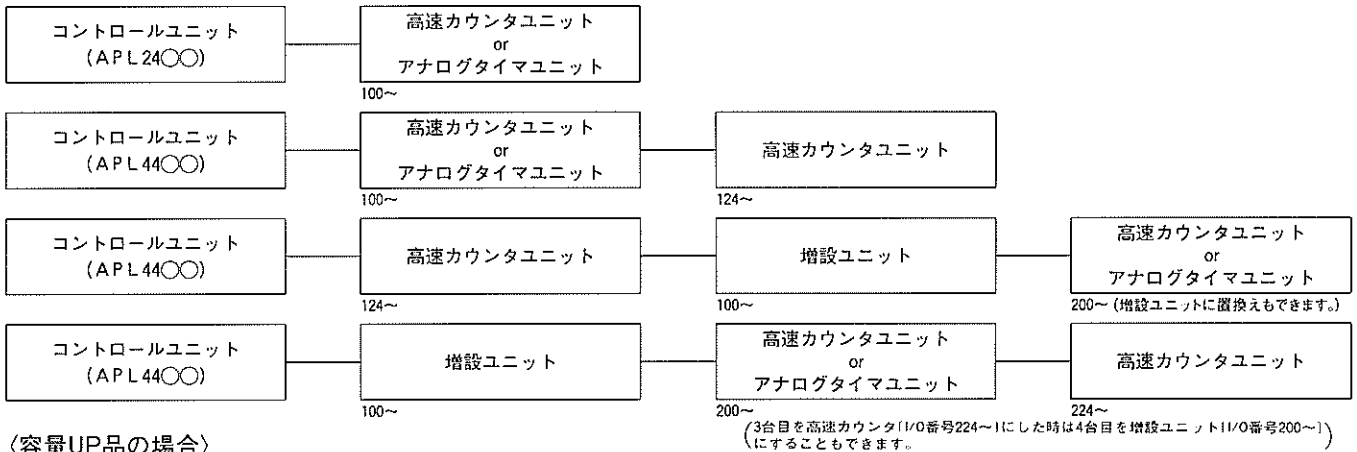
タイマ番号	I/O割当て番号切替スイッチ下側		I/O割当て番号切替スイッチ上側	
	増設ユニットの前の時*	増設ユニットの後の時**	増設ユニットの前の時	増設ユニットの後の時
T0	X 100, Y 100	X 200, Y 200	X 124, Y 124	X 224, Y 224
T1	X 101, Y 101	X 201, Y 201	X 125, Y 125	X 225, Y 225
T2	X 102, Y 102	X 202, Y 202	X 126, Y 126	X 226, Y 226
T3	X 103, Y 103	X 203, Y 203	X 127, Y 127	X 227, Y 227
T4	X 104, Y 104	X 204, Y 204	X 128, Y 128	X 228, Y 228
T5	X 105, Y 105	X 205, Y 205	X 129, Y 129	X 229, Y 229
T6	X 106, Y 106	X 206, Y 206	X 130, Y 130	X 230, Y 230
T7	X 107, Y 107	X 207, Y 207	X 131, Y 131	X 231, Y 231

注) ※ 1台目の増設ユニットの前、もしくは増設ユニットを使用しない場合

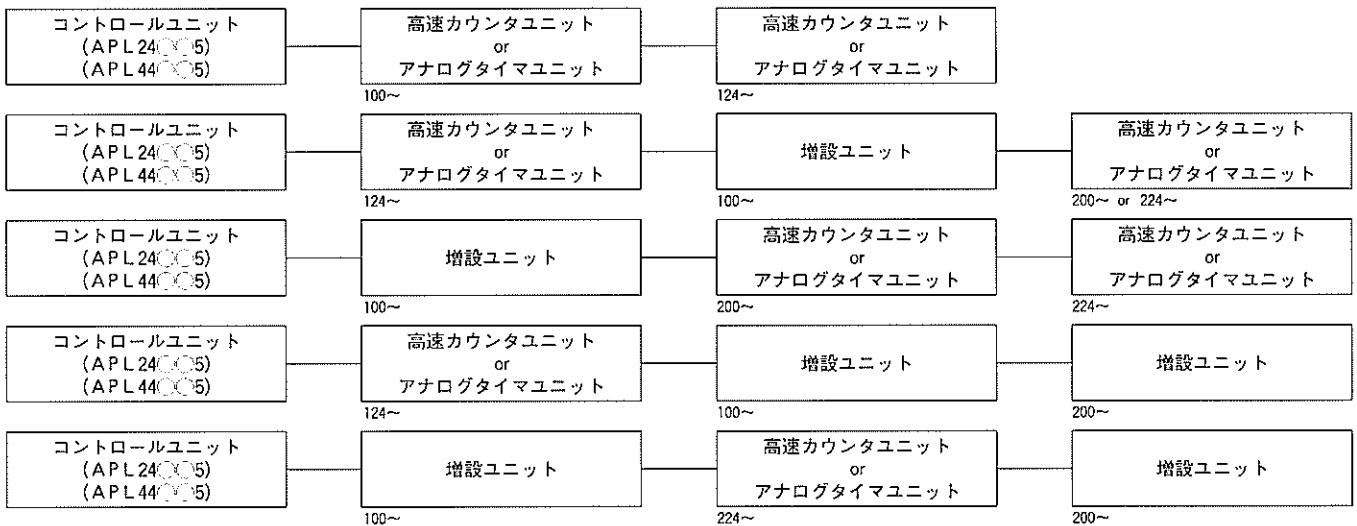
※※ 1台目の増設ユニットの後に接続する場合

● 連結方法

(従来品の場合)



(容量UP品の場合)



※ 図中、下部の番号はI/O番号を示します。

1) 増設ユニットのI/O番号は自動的に決まります。この番号と重複しないように、ケース側面のI/O割当て番号切替スイッチによりI/O番号を設定してください。

2) 4台連結時の増設ケーブルの長さは、3本のケーブルの長さの合計が104cm以内になるように選択してください。(例 48cm+48cm+8cm, 28cm+28cm+28cm)

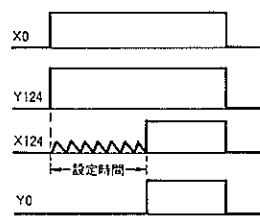
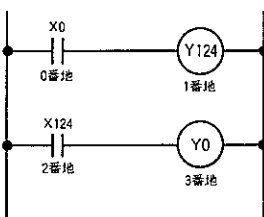
■ プログラム方法

プログラム方法を例題をもとにご説明します。

プログラム用回路

タイムチャート

プログラム



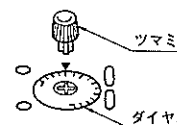
アドレス	キー操作
0	START [X (0.1S)] 0 WRT
1	OUT [Y (1S)] 1 2 4 WRT
2	START [X (0.1S)] 1 2 4 WRT
3	OUT [Y (1S)] 0 WRT

タイマコイルはY命令、タイマ接点はX命令によりプログラムします。例ではX0が働くときタイマコイルY124が励磁され、設定時間後、タイマ接点X124が閉じて出力Y0が働きます。

■ 取り扱い方法および使用上のご注意

- 1) アナログタイマの経過値をモニタすることはできません。
- 2) コントロールユニットのポーズ入力が働いてもアナログタイマの時間経過を止めることはできません。
- 3) アナログタイマの時間設定はダイヤルの目盛範囲内で行ってください。ダイヤルの0目盛は制約時間の可変できる最小時間を示しています。(0秒あるいは0分ではありません) また、目盛範囲外の∞印はダイヤルの回転範囲を示しています。

- 4) ツマミ(ダイヤル)はストッパー以上回さないでください。タイマの動作中にツマミを回したり、レンジの切替を行いますと誤動作の原因となりますので、動作していない状態で設定してください。
- 5) ツマミを回して時間設定した後、誤って時間変更しては困る時にはタイマのツマミを外してご使用ください。



つまみは引っ張ると外れます。

使用周囲環境および取付け・施工についてはPL Mark II 本体の使用上のご注意の項(P.15)をご参照ください。